

鍼灸で 健やかに!

9

登美ヶ丘治療院長

野口 創



月経痛と鍼灸治療

月経痛を引き起こす主な原因は、大きく二つに分かれる。

①器質性月経痛⇨子宮や卵管などになにか「器質性」目に見えるはつきりした異常」があつて痛みが起る場合。これには子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫、子宮の奇形、腫瘍、骨盤内臓器(卵

巣や卵管など)の炎症などがあ

る。

②機能性月経痛⇨「目に見えるはつきりした異常がない」のに痛みが起る場合。これには内分泌の失調(子宮収縮ホルモンが多

で、このような痛みが断続的または持続的に感じられる場合がほとんど。随伴症状として、不安感・頭痛・吐き気・倦怠感・疲労感・胃痛・便秘などを伴う。

中国医学では月経痛の原因を「ストレスや精神不安が原因のタイプ」「手に体の冷えが原因のタイプ」「人間が持っている根本的なエネルギーや栄養が不足しているタイプ」「月経と関係する臓器の虚弱なタイプ」などに分別する。

人体の活動をささえているエネルギー(気血)きげつ)の働きが、上記のような原因により悪くなり、子宮の血液の流れが滞ると、月経痛が発生する。

タイプ診断で改善へ



月経周期
「どこに起る痛みに悩まされてい

る女性は多い。症状は月経時の下腹部痛、腰痛を主体としたもので、鋭い痛み・鈍い痛み・しくしくするよう

な痛みなどを人によってさまざま

月経痛に対する鍼灸治療は、鎮痛剤で痛みを抑えるのではなく、体質や症状、痛みの性質などを細かく診断し、患者の病態に応じた根本的治療をする。

さらに、体質改善されるまでに起こりうる痛みには、月経痛が月経の前後に多く現れることから、月経の五〜十日前および月経終了の三〜五日後に集中的に鍼灸治療を行うことによって、痛みを軽減させる。

このように治療時期を患者の月経周期に合わせて行う「月経周期療法」と、根本的原因から治療する「根本治療」を併用することで高い治療効果を発揮する。

月経痛いろいろ。